道東のエゾクロクモソウ

三重県津市　福田　知子

エゾクロクモソウを見たければ、何といっても道東である。

本州だと、エゾクロクモソウ(種としての)はそう簡単には見つからない。長野などの高山を登れる所まで登っていって、標高千数百メートルを越えても見つかるとは限らない。ちょっと標高が低いとツルネコノメソウやチャルメルソウばかりである。車で上ろうとすると、山道にチェーンがしてあったり、土砂崩れで通行止めになったりして、探すというより高い所まで行く方が大変だったりする。

そこへいくと道東はいい所だ。道東だと水の流れがある所なら、エゾクロクモソウは「その辺に」ごく普通に生えているのだ。以前、道東で採集しようと、知床博物館のUさんに生育場所を訊くと、

「いつも踏みつけて歩いているので、覚えてませんよ!」

本州ではあこがれの「高山植物」なのに、道東ではほぼ雑草扱いである。

道東と聞いて思い出すのは、知床・幌別川の河口付近の岩上を埋め尽くすように咲いていたチシマクロクモソウである。チシマクロクモソウは、花序の腺毛が無いことからエゾクロクモソウの変種とされていて、名前のとおり千島列島にもみられる。一度、知床から道東を南へ下って行ったことがあるが、ウトロや斜里では無毛だったのに、次の川で見たら腺毛があったことで、チシマクロクモソウは北海道では、本当に知床半島だけにしかないのだ、と、感心したことがある。以前、ロシア人の植物学者が千島列島を船で南下しながら調査していて、国後まで来て「次はあの島だ」と指したら、知床だった、という話を聞いたことがあるが、知床に千島関連

クロクモソウ(三重県松阪市)

セイカクロクモソウ(宮崎県児湯郡)